



毎月第2水曜日に開かれる定例会は、今後の方針などを決める大切な会議。定例会後のお食事は、皆さんにとって楽しみの一つ。

## この活動をたくさんの方に知ってもらい 全地域の方たちと繋がっていききたい



早尾台ボランティアの会の皆さんが運営するカフェ「みなく〜る」には、たくさんの方々がおいしくコーヒーと癒しを求めて訪れます。

場所は、平成30年8月に改装した早尾自治会館。まだ新しさが残る自治会館には、明るい光が差し込み温もりを感じます。その空間から漂う、コーヒーの香りと共に楽しそうな笑い声。扉を開けると、「こんにちは。いらっしやい。」と明るい笑顔で出迎えてくれたのは「早尾台ボランティアの会」リーダー鈴木淳子さん。自治会館の一室が、カフェとなったオシャレな雰囲気とスタッフの方たちのおもてなしに居心地の良さを感じます。

今回のシリーズ「まち・ひと・しごと」は、今年で活動25周年を迎えるという早尾台ボランティアの会の皆さんをご紹介します。



居心地の良い空間で、挽きたての美味しいコーヒーを飲みながら、気心知れた仲間とおしゃべりや読書は至福のひとつ。

また、「みなく〜る」を利用している方からは「一つひとつが素敵で居心地が良い。ここに来れば知り合いに会えるし仲間が広がっていく。」と利用者の皆さんにとっても「みなく〜る」は人と人を繋ぐコミュニケーションの場になっているようです。

### 住みよい、温かいまちづくり

今後について何うと、鈴木さんは、「会員も、発足当時から、人数はほぼ変わらない15名程で活動しています。また、メンバー以外にも、私たちが応援し、支援協力を惜しまない、賛助会員さん達の存在が活動を継続できた大きな力だと感謝しています。」

現在は、月一回のカフェをオープンするため、メンバー全員と真剣に話し合い、楽しい時間を共有しています。こ

### 地域でも住みよいまちづくりをしたい

鈴木さんは、早尾台ボランティアの会を発足したきっかけについて「当時は、地震災害が多く、遠方から駆けつけて助け合うボランティアの機運が高まっていました。住み慣れた町で、これからは安心して生活を送るためには、互いが助け合える仲間作りが必要。そのためにも、たくさんの方と繋がりをもち、地域でも住みよいまちづくりのお手伝いできないか。と思ったんです。」と話してくれました。

しかし、漠然とボランティアの会を立ち上げたいと思ったものの、具体案や資金も無く、仲間もいませんでした。あるのは「これから絶対に必要になるはず」との確信だけだったそうです。

会の立ち上げに伴い鈴木さんは、まず、民生委員さんに相談し、早尾自治会の役員会で「地域でも住みよいまちづくりをしたい」と協力を願い出しました。

また、このような取り組みを必要としている人がどのくらいいて、どのようなサービスを望んでいるのか地域でアンケート調査を実施。集計・分析を進める中で、ボランティア活動組織を望む声が増え、会として動き出すことができるようになりました。

落合さんは、「縁あって利根町で暮らす皆さんと元気で楽しく過ごしたい。この会の存在が住みよい、温かいまちづくりの一端となれば嬉しいです。」鳥居さんは「カフェの開催日を増やしたい。また、若い方や他の団体の方たちと一緒に活動をしていきたいです。」とそれぞれの思いを話してくれました。

カフェ「みなく〜る」は、早尾台ボランティアの会の皆さんや地域の方たちにとって、貴重なコミュニケーションの場となりました。早尾台の方だけでなく、どなたでも利用できますので、皆さんも、一度足を運んで、挽きたての美味しいコーヒーとスタッフの方たちの温かいおもてなしに触れてみてはいかがでしょうか。



左から 落合幸子さん 鈴木淳子さん 鳥居千代子さん  
一緒に活動をしてくださる方を募集中。気軽に参加してみてください。と鈴木さん。ご興味のある方は、みなく〜るオープン日に直接声をかけてください。

### 仲間が広がる場所

にチャレンジしたい。地域の中の繋がりを大切に、憩いの場を作りたい。」という思いが強くなったことから配食サービスを終了し、昨年9月にカフェ「みなく〜る」をオープンしました。

「形は変わっても、根底にあるボランティア精神や自分たちも楽しむというモットーは変わりません。」と話す鈴木さん。形を変えながらも長く活動を続けられるのは、お互いが尊重し、支えあえる大切な仲間がいるからなのかもしれません。

### 形は変わっても根底は同じ

活動当初は、ひとり暮らし高齢者の家事援助や病院の送迎、買い物や幼児の保育園送迎などのお手伝いをしていましたが、当時は、ボランティアの需要も少なく利用はそれほど多くなかったそうです。

そこで、会を発展させようと何度も議論を重ねる中で、日中独居の高齢者が多いことに着目し、新たに安否確認も兼ねた、昼食の配食サービスをスタート。昨年7月まで実施してきました。

その間、県や町で主催するボランティア関連講座を受講し、知識を深めたほか、毎月一回例会を開くなど、会員一人ひとりが、ボランティアとしての責任と自覚をもって日々活動をしてきました。

そして、最近では民間の配食サービスも充実してきたことや「新しいこと

